

失語症リハビリ担い手誕生



音楽的要素を取り入れた失語症のリハビリ手法「メロディック・イントネーション・セラピー(MIT)」を日本語で実施するための「MITトレーナー」の研修会と認定試験が東京で10月に行われ、23人が合格した。今後国内で失語症リハビリの担い手となること

失語症のリハビリ手法「メロディック・イントネーション・セラピー(MIT)」のトレーナー研修会＝10月、東京都内(画像の一部を加工しています)

23人合格、MIT実施へ



期待される。

試験は言語聴覚士で元神戸大教授の関啓子さんが会長を務める「日本MIT協会」が実施。米国で英語を話す人向けに考案されたプログラムを、関さんが日本語の音韻や抑揚、リズムに合わせて改良し、日本人向けに体系化した。

失語症には言葉はうまく話せないが歌うことができている人がいる。MITは、話を聞いて理解することができても思っていることをうまく言葉にして話せない「ブローカ失語」と呼ばれるタイプに有効とされる。

MITは患者と向かい合って座り、言葉の抑揚に応じて手を上下させながら、歌うように発声を促して言語機能の回復を図る。一緒にハミングすることがから始め、次第に自分だけで言葉を発することができるように導く手法だ。

失語症の度合いや特徴は

人によってさまざま。リハビリでは個人の状態に応じた柔軟できめ細かい対応が求められる。研修会では、参加者が互いに患者とトレーナーの役割を交代しながら手順や注意点を学んだ。

MITの認定は、標準化された手法で多くの人がリハビリを受けられるようにする狙い。同協会の事務局長を務める東京都立産業技術大学院大の佐藤正之特任教授(神経内科学)は「国内の実施例を増やして日本語での効果を示し、広く普及を目指したい」と話す。